

青少年交換セミナー報告 ～交換学生・体験報告のご紹介～

去る8月30日、伊勢崎のクレインパーク山楽荘にて「青少年交換セミナー」が開催されました。小暮高史地区青少年交換委員長の説明を中心に意義深い学習と交流ができました。交換学生の皆さんもそれぞれ率直で素晴らしい体験報告をしてくださいました。スペースの関係で今回はその中の一部をご紹介します。



夏期交換学生
群馬県立渋川女子高校1年生
町田 麻子さんの報告

私は7月23日から8月24日までの一カ月間、オレゴン州のポートランドの近くのテュアラティンという町でホームステイを経験してきました。ホストファミリーのデフォンテスさんの一家はご両親と日本にきた高2のエマと中1の妹のクララの四大家族でした。

お父さんはお医者さんで、お母さんも州政府で伝染病の研究をしている科学者でしたが、一ヶ月の間本当によく私の面倒を見てくれました。私はアレルギー性でたまに喘息の発作が出るのですが、少し調子が悪くなったとき、私が持っていった薬を確認したり、真夜中でも少し苦しくなったらいつでも部屋をノックして起こしていいよ、と言ってくれたりしました。お陰であまりホームシックを感じることもなく一ヶ月を過ごすことが出来ました。

アメリカへ着いた時、どこか行きたい所はあるかと聞かれたので、マリナーズの野球が見たいと答えました。シアトルとポートランドは地図で見るとそんなに遠くはなかったので、気楽に答えたのですが、実際にチケットを取ってもらって行くことになったら、なんと片道が車で高速道路を4時間もかかる距離で多分少し迷惑だったのかも知れません。マリナーズは負けてしまいましたがイチローがヒットを打つところが見られたので満足しました。

それ以外にもミュージカルのオペラ座の怪人やコーラスラインも見せてもらいました。特にオペラ座の怪人は素晴らしい舞台で今でも時々思い出します。エマとクララとはいつも一緒に行動して沢山の楽しい思い出を作りました。太平洋岸の海辺のコンドミニアムで2泊した時も、パズルをしたりDVDを見たりしました。

家にはダルメシアン系の雑種の犬が一匹とチンチラが二匹いました。どれもとても可愛く、帰る時もとても名残惜しく、別れてきました。

家での食事はお父さんとお母さんが一緒に作っていました。お料理はとても美味しく楽しく味わうことが出来ました。お返しに、日本から持っていったカレーとうどんを料理してあげました。どちらもとても美味しいと大好評でした。

テュアラティンのロータリークラブの例会にも出席しました。20人位のメンバーの人がいました。鐘は鳴らしていましたが、歌は歌わず、何かみんなでスローガンみたいなものを叫んでいました。全体の雰囲気は日本で出た例会よりやわらかく、リラックスしているような印象を受けました。スピーチを指名されると考えて、簡単な原稿を前の晩に用意して行ったのですが、結局最後まで指名されることはなく終わってしまいました。

私の学校では、夏休み中にどこに行こうと、全員に同じ量の宿題が出ています。それも半端ではないくらい大量の量の宿題なので、アメリカにも宿題を沢山持って行きました。エマはこの宿題の量を見て、休みなのにこんなに沢山の宿題はおかしいと一緒に怒ってくれました。

終業式の前の日にアメリカに行って、夏休みの終わる一週間前に帰国した訳なので絶対に全部の宿題が休み中に完成するとは思いませんが、人には出来ない経験をしてきたので、それも仕方がないことかなと勝手に思っています。

最後に、こんな貴重な体験を経験させて頂いたロータリークラブの皆様にご心よりお礼申し上げます。報告とさせていただきます。

本当に有難うございました。



一年交換留学生による体験報告の様子